



JAL不当解雇撤回ニュース

No583号 2019.09.03
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekai.com>

JAL争議を支援するかながわ連絡会結成集会

2019年8月27日

8月27日、横浜波止場会館で「JAL争議を支援するかながわ連絡会」が発足しました。全国では33番目のJAL争議の支援団体です。参加者は183名、会場は座りきれない人たちで埋めつくされました。

かながわ連絡会は「労働者の使い捨て解雇自由は許すことなく、労働者が安心して働ける社会実現に向けて、JAL争議は負けれない」と、ナショナルセンター、ローカルセンターの枠を超えて、神奈川県下の労組・団体で組織されました。会場を包む熱気は残暑をしのぐ勢いで、当該労組・原告団と連帯し1日も早い争議解決に向け闘うという取り組み方針は、満場一致で承認されました。開演に先立ち、神奈川県うたごえ協議会とフェニックス合唱団のコラボレーションに続き、JAL争議の闘い8年余りをまとめたDVDが上映され、改めて不当解雇・不当判決、そして稲盛元会長発言（解雇の必要はなかった）への怒り・悔しさがこみ上げてきました。又、前日75歳で亡くなられた原田洋一さん（支える会事務局次長）に対して黙祷が捧げられました。争議が始まった当初からJAL争議に尽力していただいた原田さんに、1日も早い解決の報告ができるよう精一杯頑張ります。



連帯のあいさつ 糸谷支援共闘共同代表

整理解雇はしないとした管財人の約束は、稲盛元会長が銀行にした約束より重い。社長発言から1年、運動休止も見事に裏切られた。とても解決する態度とは思えない。支援共闘として、必ず早期解決を勝ち取るべく、運動に取り組む決意である。



連帯のあいさつ 柚木支える会事務局長

この時期に支援組織ができることは凄い。ここから更に運動を大きくしていく。JALには解決の意志はないと皆で確認した。あんな不当解雇を許すわけにはいかない。運動を大きくするため、多くの労働者と連帯したい。



報告と問題提起 上条 JAL 不当解雇撤回裁判弁護団長

労使交渉による復職への道を頑なに否定している。企業都合の解雇の場合、再雇用時には優先権を与えられる。(ILO166号勧告) これこそが、合理性があって、公明正大な争議解決の道筋である。詭弁を弄するJALの社会的不正を運動の力で追及する。かながわ連絡会発足で一段と運動強化の展望が開けた。

年内解決を迫る運動方針と共同代表の選出など連絡会の体制を確認

議案については、神奈川労連住谷議長が一括して提案。運動方針では、年内解決を目標にし、東京オリンピックのオフィシャルパートナーである JAL に社会的責任を果たすよう求めること、4 次につながる ILO 勧告の誠実な履行を求めること、安全優先の取り組みを進めること等が提起され、満場一致で確認されました。また共同代表には、全国税制懇談会の浅井裕子税理士、労働弁護団の岡田尚弁護士、神奈川県共闘の川端議長、神奈川労連の住谷議長、全造船関東地協労組の早川書記長の 5 氏を選出しました。

各団体からの決意表明



【写真】決意表明をした各団体の代表。左より竹中さん、山田さん、小内さん、青木さん

竹中 いのちと健康を守る神奈川センター顧問
結成を喜びたい。JAL に対する怒りを行動に代えて闘う。

山田 神奈川労連事務局長
追い詰められているのは企業、嫌がることをドンドンやろう。

小内 神奈川県共闘事務局長
局面を変える第 1 歩になればと参加した。全力で取り組む。

青木 全造船委員長
国家的不当労働行為の JAL 争議、全面的支援を表明する。

原告団決意表明

内田妙子団長

今まで全国のご支援のおかげでやってこられた。10 年前の今頃から、退職強要の個人面談、苦悩の 3 か月が始まった。そして大晦日にも多くの支援者がかけつけてくれて、闘う力を与えてもらった。解決なしでは 10 回目の大晦日は迎えない。

山口宏弥団長

8 年 8 か月、あまりに不当な解雇であるという思いと、全国の多くの支援者の力が私たちを支えてくれた。8/10 飲酒問題がまた発生した。安全は二の次、職場の閉塞感に起因していると思う。オリンピック公式スポンサーに恥ないよう、国際ルールを、そして社長発言を守れと闘っていく。



【写真】集会の最後に、共同代表の神奈川県共闘川端議長の音頭で「団結がんばろう！」を三唱し、年内解決を勝ち取る決意を、「がんばろう」の大合唱で固め合いました。

